

卒業おめでとう

●今年も、創学舎では、小中高あわせて四百人以上の生徒が卒業を迎えた。慣れ親しんだ校舎

教師、友人との別れであり、また新しい場所

新しい人達との出会いの始まりでもある。振り返れば、様々な出来事があったに違いない。楽しいこともあっただろうが、それだけではなかつたはずだ。また、新しい生活のスタートを、

不本意な形で切らなければならない人もたくさんいると思う。そして不満と不安を抱えたまま動き出せずにいるかもしれない。

●そういう人達も含めて、声高らかに言おう。

「卒業おめでとう。」

●さて、何がおめでたいのか？

それはこういうことなのだ。

●「卒業」は何よりも、きみ達がかここまで生きて成長してきたこと

とを、目に見える形で確認する儀式なのだ。そのことを、きみ達に関わってきた周囲の人々が

確かめ、何よりもきみ達が自分で確かめるのだ。

だから、きみの周りのみんなが喜ぶのだ。勿論、

きみも喜ばねばならない。

●卒業は「別れ」であるが、「新たな生活の始まり



り」でもある。きみ達は、これから、新しい場所、初めての人と出会い、また大切な何年かを過ごすことになる。そういう意味では、卒業はきみ達に先へ進むことを強いる儀式である。だから、きみ達は立ち止まってはいけない。希望と勇気を持ち、新たな目標へと向けて、進んでいくのだ。がんばれ。

●ところで、塾というのはあいまいな存在で、受験というハードルがあるからこそ成り立っているものだ。そのハードルを越えるという目標をきみ達を持ったが故に、きみ達はこの塾に来た。そして、私達の役目はきみ達の目標突破に力を貸すこと。だから、この時期になるといつも思う。私達はきみ達の期待に十分応えることができただろうか。きみ達の願いを私達は受け止められただろうか。私達の思いはきみ達に伝わったのだろうか……。そしてまた思う。きみ達に会えて本当に良かった。きみ達の顔も声も涙も笑顔もしばらくは忘れないだろう。何よりきみ達は、昔の私達(今もそうである)と同じく、人生の目標を探しその目標に向かう同志であった。

●ここで先に生まれたものとして言うておく。

今の社会は、きみ達の眼には、醜悪に見えるかもしれない。今の大人は、情けなく見えるかもしれない。しかし、しかし、きみ達は、今日の本という社会で生きている。そして、その社会

を作った大人達の一員である親のおかげで生きている。そして親はといえば、大部分の親はその人なりに一生懸命生きているし、きみ達を支えている。このことは認めておいてほしい。ただ、うまくいかないだけなのだ。収入はあっても、生きがいを持ってない(イヤ、その収入を得るだけでも大変だ)。創造的な仕事をしたいがそのためにどうすればいいのかわからない。自分の勤める会社がこの先大丈夫なのか不安でも職を辞したら食っていけない。大人達はこういうジレンマの中で生きているのだ。まさに生きることは大変なのだ。そのことは理解しなさい。

そして、きみ達！出来るなら、そういう大人達を超える人間になれ。そのためには、努力をしなければならぬ。人が持つ能力には勿論差があるが、それは大したことではない。自分の持つ能力を精一杯出すことが大切だ。そのときの充実感、また次の行動へと向かうエネルギーを与えてくれる。そして、もう一つ。世の中には、ささやかでも立派に生きている人達はたくさんいる。そういう人達に、一人でも多く出会うことだ。これもまた、きみ達に新たなエネルギーを与えてくれるはずだ。

●最後に、失意の日々を送る人達(特に大学受験に失敗した人達)へ。人間が目標を見付けてそれに打ち込める機会は少ない。そういう機会を持ってない人達も大勢いるのだ。その数少ない

機会に、きみ達はもう一年向かうことが出来るのだ。素晴らしいことではないか。不安におびえる必要はない。今度こそ、自分の願望を大切に、自分の能力を出すことの喜びを十分に味わってほしい。きみ達には、その資格があるのだ。勿論、困ったときはいつでも来てもらいたい。健闘を祈っている。

●さあ、いよいよお別れだ。健康に留意し、心を広く、友を大事にし、家族に感謝し、豊かな趣味を持ち、自分が心から望むものを見つけ、しかし世の中の害になることはせず、道を拓き、自分になれる最高の自分になれ。(小林(健))

将来へのイメージ

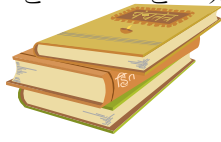
●『16歳の教科書2』という本を読んだ。学校での勉強は社会に出て役に立つのか？という疑問に答える本だ。つい先日、生徒にこの計算、大人になって役に立つのか？と聞かれた。数学を教えているとよくある質問だ。数学の中には直接役立つものもあれば、ほとんどの人には役に立たない内容も確かにある。それらをどう捉えて学習していくか。そんな疑問に答えようという本である。この本は2というくらいだから、『16歳の教科書』も出ている。副題は「なぜ学び、なにを学ぶのか」である。

●みんなは大人に対してどういうイメージを

持っているだろうか。人により様々なイメージがあるだろうが、言葉にしてみると数は意外に少ないのではないだろうか。そして、大人がしている仕事を考えてみるとその数はどのくらいになるだろうか。私が子供のころを思い出しても、大人に対するイメージはほとんどなく、職業としての仕事についてもほとんど知らなかった。自分の父親の仕事すらサラリーマンということ以外ほとんど何をしているのかわらなかつた。

● 大人になって何をしたいですか？何の仕事をしたいですか？という問いの上位は、パティシエ、プロスポーツ選手、保育士、ファッションデザイナー、漫画家だ。たいてい皆が知っている職業だ。逆に言うと自分の親の職業以外で知っている職業はどのくらいあるだろうか。恥ずかしながら私はほとんど知らなかつた。だから将来の夢も自分がどう生きていきたいかのイメージもなかつた。

● こんな状態の子供は私だけではないだろう。世の中にどんな職業があるのかわらなければ、自分のやりたいことを見つけても出来ないだろう。



『13歳のハローワーク』という本をご存じだろうか。様々な職業が簡単に紹介されている。みんなが知っている職業から暗号作成者など、面白いものも載っている。

読んでみてはいかがだろうか。

● さて知ることは、自分の幅を広げることになる。物の見方や、考え方、今まで思いもよらなかつたことに気づけるようになる。そういう意味でも様々な職業に興味を持って世の中を見てみるのも楽しいだろう。

● 自分の役に立つということは大事なことで。しかし、目先の役に立つかどうか、今の自分に必要かどうかだけにとらわれて、様々なことを捨てていってほしくない。いろいろなことに興味を持ち、必要かどうかは置いておいて、知るということに楽しさを見出せたら、人生が豊かになるのではないか。今更ながら自分の知らなかつたものをいろいろ知り自分を大きな人間にしていきたいと思っている。みんなもそういう気持ちで、自分の興味の幅を広げてもらいたいし、学習にも取り組んでほしい。

(松永)

冬季オリンピック

● 冬季オリンピックは、やはりフィギュアスケートが面白かつた。個人的にトリノオリンピックの金メダリスト、プルシエンコ選手の怪我からの復活は本当に嬉しかつた。また、惜しくもメダルは逃したが、国籍を変えてまでオリンピックへの道を目指した川口選手のペアの演技は、順位関係なく、選手の特徴を活かした個性的な

演技で非常に楽しめた。もちろん、女子シングルでの、キムヨナ選手、浅田真央選手などのアジア勢の活躍にも目を見張った。このようにどの選手も魅力的な中で、一番印象に残つたのは男子シングルの高橋大輔選手である。私の中で



はトリノオリンピックでの印象が非常に強く、一度失敗するとそのあとの演技にまで影響してしまうガラスのハートの持ち主だと思つていた。バンクーバーで銅を取つたことがニュースになったときも失敗せずの結果だと思つていた。ところが、後日、彼の実際の演技を見てみると、最初の方でジャンプを失敗していたのだ。にもかかわらず、彼は最後まで大きく崩れることなく演技をしっかりとやりこなした。ジャンプ転倒のあとには余裕の笑みすら浮かべていた。彼は、この4年間で失敗という恐怖に負けることなく集中力を保つことができるようになったのだ。

● ところで、この恐怖心の克服というのはどのようになればいいのだろうか？私は高所恐怖症で50cmほどの高さにも上ることもままならなかつた。どうすれば高いところが怖くなくなっていくのか？結論からいうと、恐怖心というのは無くなるものではない。恐怖で体や思考がすぐむのに慣れることが重要なのだ。恐怖を感じると

人の体というのはうまく動かなくなるし、思考もパニック状態になる。その恐怖にさらされた状態で冷静に体を動かすことができるようになる。人は恐怖に負けなくなる。私はこの話を聞いて、さっそく椅子の上に立つた状態で歯磨きをしたり本を読んだり、恐怖にさらされていくときに日常の動作をすることから始めた。行儀としては良くないが許してほしい。しかし、その結果、今は椅子に上つて物を取つたりできるようになつたし、透明で下の階が透けている床も歩けるようになった。

● これから入試を迎える人の中で恐怖を感じない人はまずいないだろう。人生を左右するかもしれない合否が決まるのだから、その恐怖の大きさはこれまで体験したことのないものであると思う。創学舎では中3になると、8月から公開模試が毎月行われる。そのうえ外部模試も3回は受けてもらつている。恐怖に慣れるには抜群の環境だ。あとは模試を本番のつもりで恐怖心を持って受け続けるだけだ。入試で1科目くらいは失敗しても落ち着いて問題に取り組める高橋大輔選手のような演技を披露してほしい。

(座安)

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶ 卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶ 在籍していた教室までご連絡下さい。